

# 北海道のガーデナーとしての日々

大雪 森のガーデン

富木 悠

私は北海道上川町にある大雪(だいせつ)森のガーデンという観光庭園でガーデナーをしています。大学・大学院時代は、松戸・柏の葉キャンパスで松原先生(現・松原園芸)と渡辺先生のご指導のもとオステオスペルマムの花色素に関する研究をし、2013年に修了後、縁もゆかりもなかった北海道での生活を始め、3年半が過ぎました。



ガーデナーという仕事は、ガーデニング王国と言われるイギリスと違い、日本ではまだ珍しい仕事かもしれません。ガーデナーの主な仕事は、お越しいただくお客様に最も良い状態の庭をご覧いただけるよう日々手入れをすることです。時にはお客様に見どころを伝えるガイドをしたり、より多くの方にお越しいただくためのイベントを企画したりもします。子供の頃から花が好きで、しばらく花屋に憧れていますが、植物の知識を深めたい、いつかは植物に関わる仕事がしたいと思い大学に入学した頃でも、まさか自分がこの仕事を就くとは思っていませんでした。

柏の葉キャンパス時代には、研究室の共同作業などで苗生産のお手伝いをしていましたが、人が制御した植物の姿より、地面で力強く育つ植物の自然な姿により魅力を感じるようになりました。そんな中、研究室の先輩が働く造園会社で関東のガーデンや個人宅での管理や植え込みのアルバイトを経験し、庭の世界を垣間見たことで、花と緑そしてそれらがつくる風景を管理することに興味を持ちはじめました。そして、大学院修了の年にオープンする大雪森のガーデンを渡辺先生にご紹介いただき、ご縁がありガーデナーとして働くことになりました。



ガーデン周辺からの眺め

## 大雪森のガーデンのご紹介

大雪森のガーデンがある上川町は、北海道のほぼ中心にあり、旭川から北東に約1時間のところにあります。北海道最高峰の大雪山連峰の一部を有する、自然豊かな町です。スキージャンプ競技の原田雅彦選手や高梨沙羅選手の出身地として耳にしたことがある方も多いと思います。

大雪森のガーデンは、周辺を農耕放牧地に囲まれ、大雪山連峰を一望できる標高約640mの丘に、上川町によってつくられたガーデンです。周囲の景観の素晴らしい



「森の花園」



「森の迎賓館」木もれ日の森

しきが、私が移住を決めた理由の1つでしたが、ガーデンができる前からこの景色を見に人々がこの場所を訪れていました。

ガーデンは2013年にプレオープンし、今年4年目を迎えるました。約3.5haの北海道原始の針広混交林の中に自然の傾斜を生かして「森の花園」、「森の迎賓館」の2つのエリアが造られ、季節ごとに表情の異なる風景を楽しむことができます。

「森の花園」は、北海道を代表するガーデナーの上野砂由紀氏による植栽デザインで、園芸種を中心に、北海道に自生する山野草を織り交ぜ、大雪山連峰で見られる高山植物も植栽しています。グラウンドカバープランツで地面から泉が湧き出る様子を表現した「花の泉」など、特徴ある5つのテーマガーデンで構成されています。野趣あふれる約700種の花々が春から秋まで華やかに咲き継がれます。

一方「森の迎賓館」は、北海道で数多くの公園や観光庭園の造成に関わってきた笠康三郎氏により植栽がデザインされており、北海道に自生する野草を中心に、一部分に園芸種が華を添えるように植栽されています。このエリアには、里では見られないダケカンバやエゾマツなどの多くの自生樹木が生え、倒木更新や切り株更新を間近に見ることができます。この豊かな森でお客様をおもてなしすることで、少しでも森を感じてもらいたいという思いで造られました。



「森の迎賓館」森のリビング



メコノプシス

何といってもこのエリアの見どころは、「ヒマラヤの青いケシ」とも呼ばれるメコノプシスです。メコノプシスは、夏の気温が28°Cを超える場所では枯れてしまうため、北海道の中でも限られた場所でしか育ちません。澄んだ青色の花を見ると心が洗われます。

ガーデンには、ショップやカフェが併設されているほか、フレンチの重鎮・三國清三氏がオーナーシェフを務めるイタリアンレストランやヴィラ（宿泊施設）もあります。

### 森のガーデンの四季

森のガーデンには、約半年の長い冬を経て皆が待ちわびた春が5月上旬にようやくやってきます。雪の中からスノードロップやキバナセツブンソウが顔をのぞかせるのを見つけると、毎年見ているはずなのに感動します。その後も、小球根類が次々と咲きだし、モノトーンの世界に彩りを与えていきます。個性豊かな宿根草の芽吹きをみるのもこの時期の楽しみの一つです。柔らかな日差しが降り注ぐ中、5月中旬にチューリップが咲

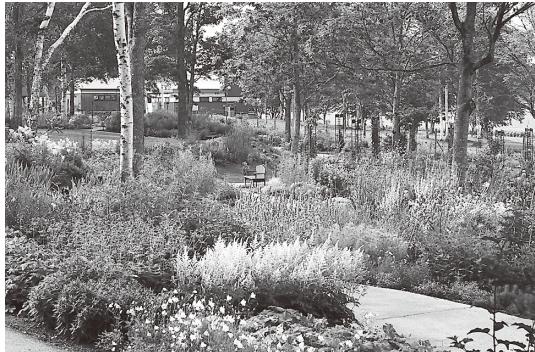


「森の花園」満開のスイセンと大雪山系

き始めると本格的に春が来たなど実感します。新緑も美しい季節です。

6月になると宿根草が勢いよく成長し、植物のエネルギーに驚かされます。「森の花園」ではアリウムが印象的な風景を創り出し、高山植物が大雪山連峰より約1か月早く見ごろを迎えます。中旬になると花の種類が増え、日に日に賑やかになってきます。「森の迎賓館」ではメコノプシスが咲き始め、爽やかな青色が涼しさを演出します。

7～8月は最も花の種類が多い季節です。200～250種類の花が競うように咲き、お客様を迎えます。



「森の花園」親しみの庭

9月にカノコユリやアスター、オミナエシなどが咲き、グラスが穂を出し始めると秋を実感します。下旬にはカエデ類やミズナラなどの紅葉も始まります。夕暮れ時に西日が差し込んでセピア色に輝いている庭を眺めていると贅沢な気持ちになると同時に、庭仕事もあと少しだなど寂しさを感じます。



「森の花園」カムイミンタラ

10月に入ると霜が降り、冬はすぐそこです。遅咲きのアスター、コルチカムが寒さに動じず鮮やかに咲き誇ります。中旬の初雪が降る頃に、閉園を迎え、短いシーズンが終わります。

北海道は本州に比べ、日中と夜との温度差があるため、花の色が鮮やかになります。夏は湿度が低く冷涼なので、植物にとってストレスが少なく、花の大きさや草丈が大きくなり、また密植しても蒸れにくいため、溢れるように咲くボリュームのある植栽を楽しむことができます。

当ガーデンは標高が高いため、涼しい場所でしか育たない植物が見られたり、他の場所で見逃してしまった花を少し遅れて見られたり、逆に秋の花や紅葉は一足早く見ることができます。また、花もちが良いので、秋の遅くまで多くの花を楽しむことができるのも当ガーデンの強みです。

### 森のガーデンの庭仕事

ガーデンの管理は、花と低木類を管理するガーデナー6名と、芝生の管理や草刈り・大工仕事などを行うフィールドキーパー2名で行っています。



ガーデン管理スタッフ（前列左が私）

「森の花園」、「森の迎賓館」の他にウェルカムガーデン、ハーブガーデン、カラー borders を管理しています。

春は低木の冬圃い外しから始まり、施肥、暑くなる前に補植など、夏は倒れやすいものの支柱、除草、低木の剪定、台風対策など、秋に涼しくなったら補植、自生種の採取、そして閉園後から根雪までが勝負です。地上部の刈り込み、約1万球の球根植え、低木の冬圃い、落ち葉掃除など。午前中は地面が凍り、できる作業が限られ、また日も短くなるため、寒さと時間との戦いです。この時期の作業が一番厳しいかもしれません。11月中旬に根雪になると庭仕事は強制的に終わります。冬の間は、来年度の作業計画やイベントの企画、写真の整理、花名ラベル等の更新、プロモーション、研修などを行っています。毎年庭仕事が終わって数週

間後には植物が恋しくなるので、夏の写真を見て乗り切っています。

5月中旬～10月中旬の開園期間には、開園前の清掃とその後の花ガラ摘みが日課です。これらの作業中に、その日開花した花をチェックしたり、気になることがあれば作業計画に組み込んだりします。また季節ごとにコンテナに寄せ植えを作り、入口などを飾ります。

私は森の迎賓館の担当として、デザイナーの笠氏と定期的に園内を回り、改善点などを聞いたり、やるべきことや気付いたことを作業計画に組み込んだり、種苗や資材を発注したりしています。

オープン当初は、ガーデナー全員が未経験で、唯一園芸を勉強してきた私も関東との気候や植生の違いから、いつ何をしたらよいのか全くわからず、笠氏に指示してもらったことをやるということがほとんどでしたが、年を経るごとに先を見越して作業ができ、この場所はこうした方が良い、こうしたいという考えがでてくるようになりました。

庭仕事は天気に大きく影響されて大変なことも多いですが、雄大な自然に囲まれて、四季の変化を間近で見られるのは幸せだなと感じます。冬が長いからこそ気付かされる、私にとっての植物の存在の大きさや植物の生命力の強さを感じながら、日々仕事をしています。

## 貴重な経験を得られた

### 「北海道ガーデンショー2015大雪」

2014年のグランドオープンから1年後の昨年、「北海道ガーデンショー」という一大イベントが当ガーデンをメイン会場に開催されました。国内外の建築家やガーデンデザイナーなどによる招待作品と公募で選ばれたコンペティション作品が新たに造成されたエリアに造られました。約4か月という長期間の開催だったため、天候に左右される屋外で作品を綺麗に保つことが最も難しい部分でした。特に招待作品の「ドレスガーデン カンテ」は、風雨を遮るものがない丘の上にあるため非常に苦労しましたが、お客様自らが作品の一部になって体験ができる今回のガーデンショーの象徴的な作品として注目されました。

会期中は、開園前と閉園後の限られた時間での作品の手入れ、ガーデンボランティアの運営、本数・面積が増えた団体の園内ガイド、花園・迎賓館エリアの管理などをこなす落ち着かない日々でした。そんな中でも、ガーデン業界のプロフェッショナルを講師として招いたガーデンアカデミーはとても印象深い体験でし

た。イギリスの名園・グレートディクスターのファーガス・ガレット氏や壁面緑化の世界的第一人者のパトリック・ブラン氏、ガーデンデザイナーの吉谷桂子氏やポール・スマザー氏など、国内外で活躍され、北海道ではなかなかお話を伺えない方々からお話を伺い、植物や庭、デザインへの様々な向き合い方などを知ることができました。



「ドレスガーデン カンテ」  
(「カンテ」はスキージャンプの踏切り台の意味)

## 今後に向けて

森のガーデンの魅力を知って、何回も足を運んでくださるリピーターを増やすことが大きな課題です。そのためには、さらに手入れの行き届いた居心地の良い空間を目指すことはもちろん、毎年の話題作りが欠かせません。来年に向け、今年の秋はビタミンカラーを中心としたチューリップを約1万球植え込み、「森の花園」の一部をリニューアルしました。また来年度も引き続き、ガーデンに来るきっかけになればと、ガーデナーによるワークショップを開催する予定です。さらにメコノプシスを標高が高い当ガーデンならではの花としてアピールすべく、エリアを拡張しようと考えています。

当ガーデンは、標高が高いため、涼しい場所でしか育たない植物が見られたり、同じ花を他の場所と時間差で見ることができたり、何より周囲には素晴らしい景観があります。今後はこれらの強みをさらに発信し、より多くの人に愛される庭になればと願っています。